

のき 上島町議会 議うご

平成23年 第1回定例会

本定例会は3月10日に招集され、会期を22日間と決めましたが、18日で審議等を終え開会しました。なお、行政報告及び各議案の主な内容、議決結果は次のとおりです。

上村町長の行政報告

この冬は日本各地において、記録的な大雪となりましたが、私達の瀬戸内海は桜の便りを心待ちにするだけの温暖な気候に恵まれ、港では新たな旅立ちと出会いに触れ合う時候になってまいりました。

本日は、平成23年上島町議会第1回定例会を招集いたしましたところ、全員の出席をいただきまして誠にありがとうございます。

まず、2月6日の「生名橋開通記念式典」が、中村知事ご夫妻や加戸前知事ご夫妻をはじめ、国や県あるいは関係各方面から多数のお客様をお迎えし、賑やかに楽しく、上島町の新たな歴史を飾る日にふさわしい一日になりましたことに、心からの感謝を申し上げます。

佐島地区と生名地区からもダンジリの参加があり、その華やかさと勢いに来賓の皆様も驚いていらつしました。そして、何よりも嬉しかったのは町民の皆様が大勢参加することで、開通をお祝いしてくれたということです。特別に参加していただいた村上幸史選手が「こんなに多くの住民を見たのは初めてだ」と話された

ように、生名橋を埋め尽くす町民の多さに私もびっくりしました。

この町民の感謝の気持ちの表れと熱意は、上島町にとっての「坂の上の雲」、次の岩城橋着工に必ずやつながります。

この生名橋開通記念式典を盛り上げて頂いた、各地域の町民の皆様、責任者の皆様、町外から参加していただいた方々、そして何日もかけて県と打ち合わせを行うなど、陰で支えてくれた上島町役場職員の皆さんに改めて心からの感謝を申し上げます。

12月定例会後の主な行政活動は、上島町ホームページやCATVでの報告に代えさせていただきます、本日は今後の予算や政策の方向性について報告致します。

私は、新年度の「まちづくり」において、昨年の3月定例会でお伝えした方針を揺らぐことなく継続し、先人が築き上げた伝統と文化を守りながら、統一性と物語性があるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

日常における、行政事務を確実に執行し「花と音楽と笑顔の島」をテーマに、「夢・愛・楽・笑」を包括した短期・中期・長期・超長期計画を立てることについては、職員と協議した各課の目標や政策を近く公表したいと思っております。その中で、一例として、4つの島を四季の花で彩ることで、地域が安らぎで潤い、年間を通して町外の方々が訪れ、地域の皆さんと触れ合いを楽しんでいただけるような施策を、町民の皆様と話し合いをしながら構築していきたいと考えています。また、子ども達にとつての「宝島」を引き続き追い求めてまいります。

産業振興は、「生名橋」を冠とし「生名橋開通記念事業」として今年と来年の2年間を、例年の事業と共に新たな施策を展開するとしてように、一人でも多くの方々が上島町に訪れてい

ただけるよう、癒しを求めるお客様には「おもてなしの心」で対応することなど、お迎えする立場を上島町役場の職員も自覚し、更なる交流と観光事業に力を入れてまいります。

特に、最近では瀬戸内海が見直され、サイクリストの注目が集まっていますので、サイクリストに優しい環境作りから始めることが、上島町にとっての新たな観光振興のきっかけになるものと考えています。

また、インフラが整っていない上島町では、今の民主党政権では悪者のように扱われている公共事業も、町民の生活環境向上や行政運営上欠かせない施策です。国の公共工事予算が縮減されている現状においても、上島町では職員による情報収集や研修を積み重ね、交付金事業を積極的に提案することで、地場産業を下支えするための施策を引き続き実施し、環境整備を行ってまいります。

教育は現在、上島町の要望通りに進んでおりますが、今年も重点要望で国や県に訴え、高等教育の維持充実を図ってまいります。

少人数ながら、クラブ活動において原子力やエネルギー等環境についての研究で文部科学大臣賞等を受賞、俳句甲子園全国大会へ出場するなど、瀬戸内の島々から光を放つ弓削高等学校や、豊富な人材と広い人脈を誇り、その活躍がめざましい弓削商船高等専門学校を、教育委員会を中心に更なる地域密着型の力で支えなければなりません。町民の皆様方も両校の生徒を、我が子、我が孫、我が家族として、今まで以上に温かく支えて頂きますようお願い申し上げます。

福祉・医療についても昨年同様「仁」の精神で、弱い立場の方々を守り抜き、上島町民のボランティア精神の崇高さに感謝しながら施策を進めてまいります。現在、新たな特別養護老人

ホームも完成が間近となり、利用者の利便性や利用定員の拡充に大きな役割を果たすよう運営計画を進めています。医療についても、高齢者への支援はもちろんですが、子宮頸がんワクチン接種に対し、精査の上国の決定に先駆けて全額個人負担を無くしました。さらに、全国でも稀な中学卒業までの医療費無料化を実施したように、今後も生活環境向上や子育てへの支援を進めてまいります。

昨年4月から変更した行政組織は、高い評価を得ている部分があるものの、私が考えている機能が十分に発揮されておらず、情報の共有と意識改革を今後も続ける必要があると考えています。

指針を統一した上で、幹部を中心とした職員に更なる権限を移譲し、地方分権に備えた組織作りが重要であり、知事が新たに打ち出した県との人事交流を活かしながら、職員と共にスキルアップを図ってまいります。

まちづくり懇談会でも説明させていただきましたが、上島町では自治体の財政指標を代表する実質公債費比率が今回も良くなっています。上島町の平成21年度実質公債費比率12・0%は愛媛県下20市町内で4番目という健全な数値であり、平成22年度当初予算で取り崩しを予定していた総額4・9億円の基金も、この年度末には、寄附金分の取り崩し234万円を除き、全額取り崩しを中止することができました。さらには、減債基金等に5400万円の積み立てを行う予定です。今後も積極的な行政運営や提案事業実施を目標に掲げ、「夢」を語りながら、堅実に計画的・長期的な財政計画の中で施策を進めてまいります。

さて、マニフェスト選挙で誕生した今の政権は、予想通り財源のないままの政策により公約はぶれ続け、内部抗争にまで発展しているのが

現状です。

全額国が負担するとした「子ども手当」も、地方負担を継続させ、「社会保障と税の一体改革」議論においても、消費税は上げるが地方に配分する考えはないとの政府高官の発言があるように、財源の見地から不可能な約束を無理に実現しようとするあまり、地方に大きな負担が押し寄せようとしています。

地方が現在負担している社会保障関係費は今後も拡大する見通しであり、地方単独事業である予防接種やがん検診、子どもの医療費助成など、町民の福祉や健康増進につながる施策に大きな影響を及ぼします。

公明党も平成23年度予算関連法案について反対のかじを切り、社民党さえも反旗を翻そうとしている現状は、当初から予想されていたこととはいえ、「バラマキ」や「迎合主義」の終焉を迎えつつあるといっても良いのではないのでしょうか。

我々国民もそれを批判するばかりではなく、このような経済状態、社会情勢においては、辛抱することや痛みを分かち合うことの大切さを自覚し、弱い立場にある人達へのいたわりを優先することを、昔の大人達が身を持って教えてくれたように、子ども達にもしっかりと伝えるべきではないでしょうか。

さて、例年、この3月定例議会時には、国の来年度予算を分析して報告していましたが、現在の政治情勢ではその分析も無駄となる可能性があり、何が起きるか分からない状況でありますので、今回は割愛させていただきます。

次に、中村知事による初の本格的な予算編成となった、愛媛県の平成23年度一般会計当初予算は、「削るべきものは削り、やるべきことはやる」メリハリの利いた編成の結果、一般会計6063億9千万円（前年度比1・1%増）と

発表され、当初予算ベースでは5年ぶりに6千億円台となっています。

しかし、人件費や借金返済の公債費等義務的経費が歳出の47・6%を占めるなど、厳しい状況に変わりはなく、自由な財政運営が難しい状態です。

その厳しい財政状況の中においても、新規事業として中村カラーを打ち出した、別子銅山遺産を核に四国中央、西条、今治、上島の各市町に残る近代化遺産を「重要な観光資源」と位置付け、まちづくりや観光ルート整備事業が予算計上されています。これは公約でも謳われた「愛顔（えがお）あふれる愛媛県」の実現を目指したものであり、その中の「観光に愛顔を」に関わる政策です。上島町においてはこれに連動して、弓削島の石山を核に様々な施策の推進を図ることとしております。

また、「雇用、経済に愛顔を」として、上島架橋整備事業費が、県単独で岩城橋の整備に向けた調査費3700万円を含む2億2820万円という予算で計上されております。上島町民の夢に光を注ぎ、公約実現のための助走予算として、事業の総仕上げへの第1歩を踏み出していただいた中村県政に、上島町民を代表して敬意を表し感謝を申し上げます。

今後は上島町として、岩城橋開通という夢を上島町民の「志」とし、「やればできる。叶わない夢なんてない」という事実を後世に伝えなければならぬと考えておりますので、上島町議会はもとより、上島町民の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

上島町の新年度当初予算案は、総額61億1千2百万円で、前年度比1・6%の減といたしました。歳入では国の「地域主権改革に沿った財源の充実を行う」という方針のもと、地方交付税は増加しているものの、人口の減や不況によ

る町税等一般財源の減収に対応するため、新年度の基金繰入金は、7億9千万円と平成22年度当初より3億円増加しています。

町税等自主財源比率は28・7%と依然として低く、基金繰入金を除いた実質的な自主財源比率は15・8%にすぎず、国や県に依存している体質は変わりません。

一方歳出は、必要性・有効性・効率性・優先性の各視点を携え、国・県の交付金や補助金を最大限に活用した予算編成を行った結果、まちづくり懇談会等による地区要望事項や離島甲子園・かみじま音楽祭関係経費、港整備・町道整備・学校空調設備整備・公共施設耐震化改修など、将来の上島町にとって重要な予算を計上致しました。

特に「離島甲子園」につきましては、北は礼文島、南は久米島など、全国各地の離島から総勢四百名を超える野球少年やその保護者・参加自治体関係者、さらには「マサカリドリムス」を率いる村田兆治氏など、往年のプロ野球選手も多数来町されます。この離島甲子園を通じて、広く上島町が認知されることはもちろんですが、町民の皆様にも中学生を通じて大きな交流と深い思い出が育まれますよう、そして全国離島の中学生の心に瀬戸内の上島町が、消えることのない美しい記憶として刻まれますよう、小さな子どもからお年寄りまで、上島町民全員の参加とご協力をお願い申し上げます。

次に、上島町の職員人件費は昨年に比較して2千500万円の減、ラスパイレース指数は県下で一番低い83・3であり、この2つの数値には、集中改革プランにおける職員定員管理の適正化の効果が大きく表れております。

また、昨年も申し上げましたように、使用料や公共交通機関の運賃が財源となっている特別会計の多くは、一般会計からの繰り入れを行わ

なければ経営が成り立たないのが現状であり、町民の皆様からお預かりしたお金で赤字部分を補填しています。結局、町民の皆様がお金を負担していることには変わりはありません。次の世代に大きな負債を残さない為、弱い立場の人達に支援を行う為には、今後は一般会計からの繰り入れを極力減らし、受益者負担の原則を遵守すること、さらには使用料等の見直しによる独立採算できる会計の確立が不可欠です。

特に、以前からお伝えしている公共下水道事業等下水道3会計においては毎年2億5千万円近い赤字が出ており、看過することのできない問題です。今後健全運営に向けての使用料見直し案をお示しし、町民の皆様や議会との協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、ご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、いまから二百四十年ばかり前の米沢藩は「大名家を幕府に返上しよう」とまで先代が決意するほど財政が逼迫していましたが、それを見事に立ち直らせた藩主が上杉鷹山であることは有名な話です。ただ、財政再建のための行政改革は、弱い立場の者に更なる負担が偏り、堅苦しく湿っぽく、大方が成功とは言えませんでした。

しかし、米沢の人々は「上杉鷹山公の行った行政改革（経営）は、赤字を消しただけではない。人間の心の赤字を消したのだ。人々の胸に、もう一度他人への愛、信頼という黒字が戻ったのだ」と語り継いだように、行政改革においても優しさといいたわり、そして思いやりが必要で。また、「地域住民のために、役所や役人が存在するのだ」と封建時代の上杉鷹山が近代民主主義を語っている事に、改めて行政の役割や目的を明確にすること、意識改革が重要であることを再確認しなければならぬと考えています。

各議案の主な内容及び議決結果

条例議案

■インランド・シー・リゾート フェスパ条例
インランド・シー・リゾート フェスパの整備に伴い、関係規定を整備する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町国民宿舎条例を廃止する条例
インランド・シー・リゾート フェスパの整備に伴い、上島町国民宿舎条例を廃止する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町健康増進センター条例を廃止する条例
インランド・シー・リゾート フェスパの整備に伴い、上島町健康増進センター条例を廃止する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町生名地区ふ頭用地使用条例を廃止する条例
上島町港湾管理条例、上島町駐車場条例により管理及び使用料を徴収することに伴い、上島町生名地区ふ頭用地使用条例を廃止する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町特別会計条例の一部を改正する条例
老人保健事業会計及びふ頭用地事業会計を廃止することに伴い、関係規定を整備する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
国家公務員の育児休業等に関する法律の改正に伴い、関係規定を整備する必要があるため。 — 原案可決 —

■上島町国民健康保険出産費資金貸付事業条例を廃止する条例

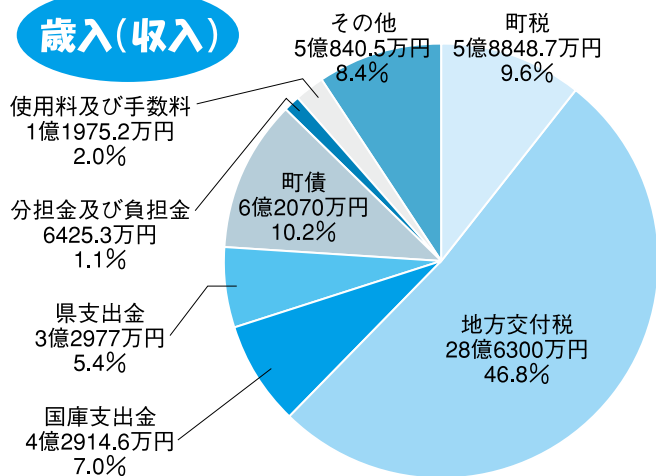
平成23年度予算総合計

98億870万円（前年度 107億8835.8万円）

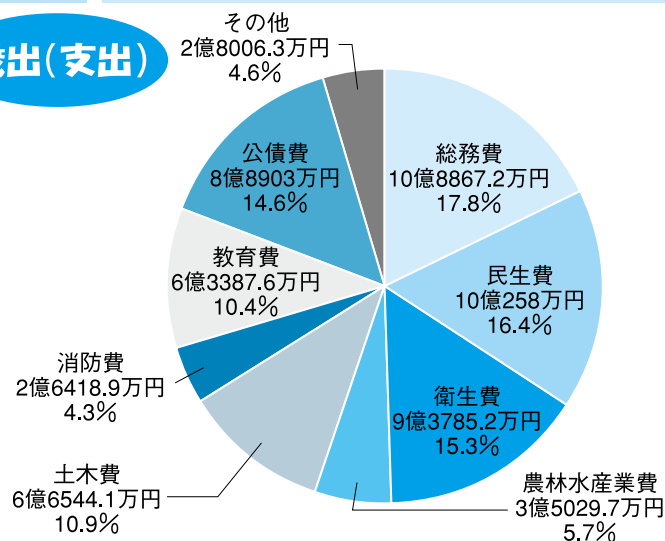
一般会計61億1200万円

（前年度 62億1100万円）

歳入(収入)



歳出(支出)



特別会計等36億9670万円（前年度 45億7735.8万円）

会 計	予 算 額	会 計	予 算 額	会 計	予 算 額
国民健康保険	12億3400万円	簡易水道	3200万円	生名船舶	1億9490万円
後期高齢者医療	1億3100万円	C A T V	1億3130万円	魚島船舶	1億2600万円
国保診療所	6250万円	農業集落排水	6570万円	特別養護老人ホーム	2億7400万円
へき地出張診療所	850万円	介護保険	6億2930万円	上水道	2億5860万円
住宅新築資金等貸付	80万円	介護サービス	3960万円		
公共下水道	4億8250万円	浄化槽	2600万円		

平成23年度 主要工事箇所

社会資本整備総合交付金事業
4201.9万円

生名稲浦団地解体工事、岩城
石ヶ坪B棟浴室改修工事

港整備事業1億5000万円
小漕港（本工事）

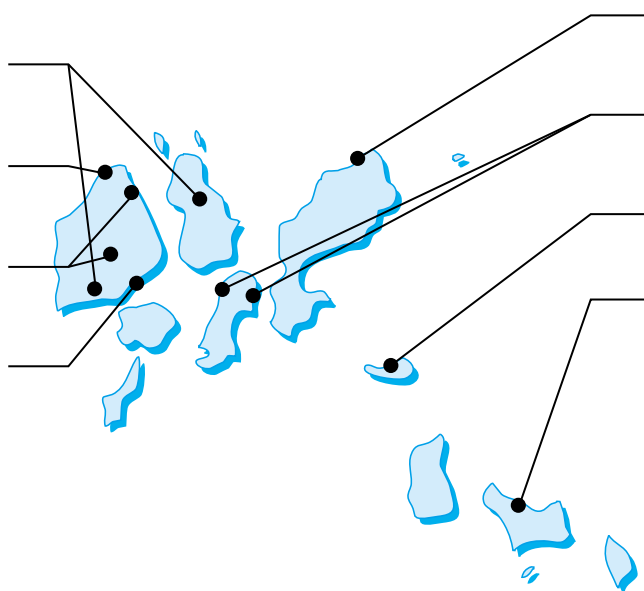
岩城地区社会資本整備総合交
付金事業 5000万円
白石線、積善山整備事業

岩城消防車庫移設工事
1617.1万円

学校空調設備整備事業
1億290万円
弓削小・弓削中・生名小・岩城
小・岩城中・魚島中学校設置

公共施設耐震改修等事業（弓
削体育館（改修工事）、岩城
体育館（耐震診断））
1億4752.5万円

地域環境保全対策費事業（外
灯LED化）4263万円
町内1,400基設置（単年度事業）



弓削地区道整備交付金事業
（久司浦後海岸線）3000万円

弓削地区社会資本整備総合交
付金事業（佐島循環線、西辺
線）3000万円

豊島貯水槽増設工事
1488.4万円

魚島地区道整備交付金事業
（井ノ頭大木線）2800万円

【魚礁関係】
●弓削漁村再生交付金事業
（魚礁）2150万円
●弓削漁村再生交付金事業
（増殖礁）3360万円
●岩城地域水産物供給基盤整
備事業（魚礁）2160万円
●岩城漁村再生交付金事業
（増殖礁）2550万円
●魚島地域水産物供給基盤整
備事業（魚礁）1974万円

【漁港関係】
●上島地区水産基盤ストック
マネジメント事業3202.5万円

国庫補助事業

県費補助事業

県営事業

町単独事業